学生広報サポーターによる「わかりやすい」研究紹介

広島市立大学の教員は、国の制度である科学研究費補助金や各種外部資金を積極的に活用して、先駆的な研究を行っています。

ここでは、その中から4つの研究に注目し、学生に取材をしてもらいました。学生が、しかもあえて「他学部」の学生が取材をすることで、その研究内容をより「わかりやすい」言葉で紹介してもらいました。

Pick Up 1 「グローバル化するアフリカにおける〈老いの力〉の生成と変容 ―宗教儀礼領域からの接近」
研究代表者:国際学部准教授・田川玄先生

Pick Up 2 「広島発高齢者見守り支援システム開発業務」
研究代表者:情報科学研究科講師・谷口和弘先生

Pick Up 3 「広島市安佐動物公園ビジュアル環境再生に伴う公共美術の研究」
研究代表者:芸術学部教授・吉井章先生

Pick Up 4 「被爆直後(1945 - 1948)の広島・長崎「復興」に関する研究」
研究代表者:広島平和研究所講師・桐谷多恵子先生

新たな老いの力 ～アフリカから日本への問いかけ～

「アフリカに対してどのようなイメージを持っていますか?」と国際学部の田川先生から最初に質問を受けました。「発展途上で、自然豊かで…」と私が答えると、田川先生は「そうでしょうね。なんとなく昔の日本のような情景を想像していませんか?しかし、実はそうではないのです…」と話を始めてくださいました。

田川先生によると、アフリカはグローバルな政治経済や気候変動などの変化を受けやすいそうです。そのため、見方を変えれば、アフリカは日本の「過去」ではなく「未来」なのかもしれないとのことです。

また、実際にアフリカに足を運んでおられる田川先生は、研究を深めていく中で、「現代の日本においては、若さがたたえられ、老人は社会の外へという見方が強くなりつつあるかもしれないけれど、そうではない老人の姿があるのではないか?」との思いに至りました。アフリカの多くの地域では、単に「老い=衰え」ではなく、むしろ人生の階段を上がることによって到達することのできる「力」であると考えられているからです。たとえば、高齢者に席を譲ることを、日本では「大変そうだから」などと考えることが多いと思いますが、アフリカでは「尊敬しているから」譲るとのことでした。

このように、アフリカにおける「老いの力」を研究することが、日本における「老いの力」を考える上で何かのヒントになり、今後、あらゆる場面で「老いの力」が発揮されることが期待されます。

(取材:情報科学部1年・中野美登里さん)

耳から広島の未来まで! ～人と人をつなぐ「モノづくり」の仕組み～

情報科学研究科講師の谷口先生に、「高齢者見守り支援システム」についてお話を伺いました。このシステムで重要な役割を果たしているのが「earable」(イアラブル)という技術です。この技術を活用した機器を耳に装着することで、耳から得られるいろいろな情報を集め、さらにその情報を発信することができます。

たとえば、この装置を高齢者の方が耳に付けておけば、普段通りに生活をする中で、体温と脈拍の測定ができます。また、職む情報から「どのような食生活をしているか」について傾向をつかむこともできます。これらのデータをインターネット上で管理し、何か異常があれば、家族や地域の見守り者に連絡がいく仕組みになっているため、このシステムは、人と人をつなぐ仕組みでもあり、希薄になった人と人との結びつきを地域のコミュニティを再生するきっかけ作りにもつながっているそうです。

なお、この「earable」を活用した装置の製作には、一見医療・福祉と関連性のない自動車関連企業が関わっています。谷口先生によると、広島には「モノづくり」の文化が根付いており、自動車関連企業の洗練された技術が、分野を超えて、医療機器にとって必要不可欠な「品質の高さ」を実現しているそうです。未来に向けて、広島の医療・福祉の発展に加えて、広島経済の強い基盤作りにも貢献したいということです。

(取材:国際学部3年・高野優花さん)

動物園の知識と芸術学部の技術が融合 ～さらに魅力のある動物園へ～

企画や制作現場監督などを担当した湯浅ひろみ芸術学部助教に、研究についてお話を伺いました。この研究では、広島市安佐動物公園のさまざまな壁に動物の絵を描き、景色を変えることによって動物園をより活気のある魅力的な場へと変化させています。2013年3月に始まり、今年(2014年)の8、9月には正面入り口壁面、ライオン舎の壁面にも新たに動物の絵が描かれました。

動物園の壁に絵が描かれるまでの過程は、まず芸術学部の学生からデザインを募集し、集まった作品の中から、教員や動物園職員の方が協議をして案を選びます。次に、選ばれた作品をデジタル化します。デジタル化後も、何度もデザインについて動物園職員の方と協議を重ね修正をしてから、ようやく壁に絵を描き始めます。公共の場に絵を描くため、いろいろな方の意見や意向を反映しないといけないこともあり、学生にとってはすごく勉強になるそうです。

動物園の動物についての知識と芸術学部の絵面についての技術が融合されたこの研究により、さらに魅力のある動物園へと今後も変貌を遂げていきそうです。

(取材:情報科学部2年・木村優也さん)

新たな歴史的事実を ～当時を生き抜いた市民による「復興」に着目～

(写真)長崎市さんの絵(三菱電機・小屋泰治)
広島平和記念資料館所蔵

広島平和研究所講師の桐谷先生が行っているこの研究は、広島・長崎への原子爆弾投下に関するさまざまなテーマの中でも、「復興」に焦点を当てています。その大きな特徴は、都市としてではなく、被爆体験者の実体験からみる「復興」に着目している点にあります。

原子爆弾投下後、放射線の影響で75年間は草木も生えないと言われた被爆地で「復興」が果たせたのは、他ならぬ「当時を生き抜いた市民の力」によるものです。

また、同じ被爆都市といっても、広島と長崎ではそこで生活していた市民の状況は大きく異なります。しかし、こういった市民の話は、情報統制等の問題もあり、史料として多く残されていないため、被爆体験者の高齢化も重なり、現代を生きる私たちには、知る機会がなかなかありません。桐谷先生は被爆体験者の元へ訪れ、一人一人面接調査を行い、当時を生き抜いた市民の声を拾っています。

被爆体験と復興に関する聞き取り調査は、被爆者に原子爆弾投下の瞬間や戦後の苦しい生活をいや応なく思い出させる、ある意味残酷な調査かもしれません。そのため、話を伺うには、「この人になら話してもいい」という関係をつくることが重要です。つまり、被爆体験者と桐谷先生が互いに信頼し合い、つながることによって、初めて成り立つ研究なのです。重い話となるため、お互いに落ち込んでしまうこともあるそうです。

しかし、知られていない「市民の話」を明らかにすることで、新たな歴史的事実を客観的に残していかなくてはなりません。そしてそれは、被爆体験者たちが生きている今しかできない研究なのです。

(取材:芸術学研究科1年・山見泉名さん)

〈表カバー〉
キッズキャンパス2014
『キッズキャンパス2014』の制作プログラムの様子。上から「ローラーで絵を描く」「お面を作って変身する」「大きな布に夢の世界を描く」

3つのひかり 未来をつくる
広島市立大学
Hiroshima City University

丁寧に
一人ひとりを大事に
社会との関わりの中で
学生を育てます

〒731-3194 広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号
TEL:082-830-1500(代) FAX:082-830-1656
http://www.hiroshima-cu.ac.jp

外部資金活用状況

本学の教員が活用している平成26年度の外部資金例を紹介します。

1. 科学研究費補助金　71件 100,400千円

(ア)基盤研究(B)　9件

(単位:千円)

研究代表者(所属・職名・氏名)		研究課題名	交付決定額
国際学部	教授 青木 信之	多様な大学環境における英語カリキュラム・管理のための学習の効果的な学習	4,000
国際学部	教授 岩井 千秋	「英語を英語で」教える高等学校教員養成が大学英語教育に与える影響	2,500
国際学部	准教授 田川 玄	グローバルなアフリカにおける〈老いの力〉の生成と変容―宗教儀礼領域からの接近	4,100
情報科学研究科	教授 石光 俊介	発声機能障害者支援システムの小型化実用機材	1,700
情報科学研究科	教授 角田 良明	アジュアンスネットワーク設計原理とその応用	2,000
情報科学研究科	教授 武田 光宏	呼吸器系未病気運びの不確計測を可能にするカテーテルセンサ技術の開発	3,300
情報科学研究科	教授 前田 香織	IP モビリティにおけるリンクベースマルチキャストハンドオーバに関する研究	3,600
情報科学研究科	教授 増谷 佳孝	拡散MRIを用いた生体構造のマルチスケール推定による新しい診断情報の創出	2,800
芸術学部	教授 服部 琴作	ヒマラヤ者ペパ関関れた密教工芸の造形と表現の研究	3,200

(イ)基盤研究(C)　43件

(単位:千円)

研究代表者(所属・職名・氏名)		研究課題名	交付決定額
国際学部	教授 赤星 聖作	アメリカにおける連邦・州・学区の教育の資質向上方策に関する総合的研究	900
国際学部	教授 関村 誠	プロテイン摂食におけるアイスランドの機能―プラット思想の変容と変容をゆるこ―	600
国際学部	教授 中島 正博	瀬戸内芸術祭の外発的インパクトと内発的発展・文化・社会・経済面からの持続的検証	300
国際学部	准教授 池田 繁子	19世紀以降のアイルランド文学におけるアイルランド語の伝統	700
国際学部	准教授 根谷 大雄	シンガポール共和国の「異質法と政治秩序―政安構持法の分析中心として―	700
国際学部	准教授 金谷 佳子	青市場小児保険サービスにおける受利・非受利事業者比較の実証分析	700
国際学部	准教授 城多 努	公立大学法人の予算管理と学内資源配分の研究	1,400
国際学部	准教授 兼利 一希	東西関係緩和和生活をNATOの対立とジレンジ政権	1,200
国際学部	准教授 高橋 広隆	社会保障と市場規模の違きに関する研究:経済実験によるアプローチ	1,000
国際学部	講師 シュウ,ワ,ウ ウ,ユスケ	東アジアにおける観関即の秩序と2種の規範政策:外交安定策益、中央と地方	900
情報科学研究科	教授 石田 賢治	歴史的への封結目指すアジュアンスネットワーク技術の研究	1,200
情報科学研究科	教授 岩城 敏	実世界とPCの同期にアクセス可能なパーズフリーインタフェース	1,400
情報科学研究科	教授 高橋 健一	教育計測のタイプ推定と関連百出を利用した効果的な制約付き最適化に関する研究	700
情報科学研究科	教授 林 朋	音楽における多声性と階層性を表現できるモデル・手法の開発	1,000
情報科学研究科	教授 松原 行宏	AR技術を用いた能動的に受容覚醒連続構造が可能な学習支援システム	800
情報科学研究科	教授 若林 真一	次世代超高速イーサネットのためのネットワーク侵入検知ハードウェアに関する研究	2,000
情報科学研究科	教授 青山 正人	心電図時間心拍ゆらぎ解析における化心電図運動の解析	1,300
情報科学研究科	教授 市原 英行	ストカスティックプロジェクション問題のP,NP-手法と情報理/演算機度設計に関する研究	900
情報科学研究科	准教授 井上 博之	視聴者のコンテキストを利用可能な電子看板とその実時間コンテンツ配信手法	1,100
情報科学研究科	准教授 岩根 典之	デジタル教材におけるエージョン型学習支援に関する研究	1,300
情報科学研究科	准教授 内田 智之	省メモリWebマイニング手法の開発とクラウドコンピューティングへの応用	1,300
情報科学研究科	准教授 小野 貴彦	音声者の病態と聞き自性に応じた音色事の最適調法経路	1,300
情報科学研究科	准教授 末松 伸朗	ガウス混ざに基づく確率モデルベース画像処理技術の新展開	1,900
情報科学研究科	准教授 河嶋 正和	ハッシュ連鎖による柔軟で効率の良い認証法	1,100
情報科学研究科	准教授 高野 知佐	大規模災害に対するGPUエンスネ強化するためのネットワーク機能自律設復技術	1,300
情報科学研究科	准教授 高橋 賢	ISDB-T向上デインタルテレビ放送における緊急警報放送信号の情報受信方法	1,400
情報科学研究科	准教授 田村 慶一	大規模ソーシャル画像データを用いた動向情報の時空間分析に関する研究	1,400
情報科学研究科	准教授 永山 忍	プログラマブル多次元ディジタル波形信号生成器の開発とその回路動作に関する研究	1,000
情報科学研究科	准教授 鷲波 美嗣	新情報の造出と書換え技術を用いたサーバイ論文の自動作成	1,300
情報科学研究科	准教授 八方 直久	光電子ホログラフィーによる強磁性半導体の局所構造解析	900
情報科学研究科	准教授 三村 和史	構造材料でMAX-XORSATの度解題の解析	1,200
情報科学研究科	講師 小畑 博靖	無線LANネットワークにおける改造版来の検出と制御を統一的に行う適応品質制御技術	1,100
情報科学研究科	講師 神尾 武司	強化学習ベース多動組織探索法に基づく海上交通アセスメントツールの実現	1,100
情報科学研究科	講師 齊藤 夏雄	正標盤の評価上で定義された代数多様体の研究	900
情報科学研究科	講師 馬場 雅志	非透視投影画像のレンダリングに関する研究	1,000
情報科学研究科	助教 川本 佳代	日本を語り人材のコミュニケーションスキル向上をめざす学習コミュニティの構築	1,700
情報科学研究科	講師 河野 英太郎	和語・林語言語内容語ランク網同付分散データウェブ上検索分類型TECによる連語方式	800
情報科学研究科	助教 高井 博之	赤外線通信による移動ロボットネットワークのための時空間分散型プロコル	3,500
情報科学研究科	助教 高橋 雄三	屋部の同和運動を抑制しない立住作業規格電子関係のための連続性検討	800
情報科学研究科	助教 目良 和也	知識内容に沿った動いた動いて検出に基づく語彙の心理状態の推定	1,000
プロジェクト研究推進室	准教授 釘宮 章光	病院計画に用いるアリ/蟻分析用マイクロチップの開発	1,300

(ウ)挑戦的萌芽研究　5件

(単位:千円)

研究代表者(所属・職名・氏名)		研究課題名	交付決定額
国際学部	教授 曽根 幸子	戦前の日本ボーク交流が1964年東京オリンピックの招致決定に与えた影響	1,300
国際学部	教授 渡辺 智恵	クロータ文学における非現実的な高い問題調査及び経長脱作成の指針に関する研究	800
情報科学研究科	教授 石光 俊介	聴覚障がい者の発声支援のための振動フィードバックシステムの開発	1,100
情報科学研究科	教授 武田 光宏	経皮吸収剤応用を目指した失反分離型生分解性マイクロニードの開発	1,400
情報科学研究科	助教 小作 敏晴	未熟系の自動動原理に基づく無線通信網での利用可能な金制エネルギー回収システムの開発	600

(エ)若手研究(B)　10件

(単位:千円)

研究代表者(所属・職名・氏名)		研究課題名	交付内定額
国際学部	講師 古澤 嘉朗	不利機関における赤字化に関する研究―政安器門改革(支援)に着目して―	500
国際学部	准教授 J.ボ 江司	三分経型から二分経型への中東学校制度再編に伴うドイツ教育評価制度の変遷	600
情報科学研究科	准教授 大田 知行	自律分散クラスタリングに基づく異種モバイルアドホックネットワーク間相互接続技術	800
情報科学研究科	准教授 原 章	アリの群知能を利用したクラブ構造プロクラムの自動生成に関する研究	800
情報科学研究科	准教授 宮崎 大輔	全周囲水源画像と偏光解析を用いた透明物体の三次元形状計測	500
情報科学研究科	講師 岡本 勝	マルチタッチ機能と国末間通信機能を活用したタブレット指向性情報伝達機構	700
情報科学研究科	助教 中山 仁史	高福等・高脳者環境下で不規則な骨伝導光マイクロファンの高精度化に関する研究	800
情報科学研究科	講師 岡山 友昭	特異性をもつ方程式に対する最適性能数値解法の開発と理論動作保証	9,243
情報科学研究科	助教 奉田 淳一	記号処理連携手段時に最適化する差分法化プログラミング手法の開発	500
広島平和研究所	講師 桐谷 多恵子	被爆直後(1945 - 1948)の広島・長崎「復興」に関する研究	300

(オ)新学術領域研究　1件

(単位:千円)

研究代表者(所属・職名・氏名)		研究課題名	交付決定額
情報科学研究科	教授 日浦 慎作	質感認知に関わる記録・合成と表示	9,400

(カ)研究活動スタート支援　2件

(単位:千円)

研究代表者(所属・職名・氏名)		研究課題名	交付決定額
国際学部	准教授 塙 小平	日本一中国における転身連続のプリーズムに関する比較研究	1,100
国際学部	非常勤講師 中石 ゆうこ	日本語学習者の自動詞・他動詞の誤用に対する「ヒューマンエラー」からの研究と教材化	600

(キ)特別研究員奨励費　1件

(単位:千円)

研究代表者(所属・職名・氏名)		研究課題名	交付決定額
広島平和研究所	准教授 ジャイコブズ ロバート	広島の復興における米国・諸外国の関わりの歴史的考察と現が国に原子力について	800

基盤研究:1人で行う研究または複数の研究者が共同して行う創造的・先駆的な研究
挑戦的萌芽研究:挑創的な発想、特に新分野のある難問に基づく学生主導の研究
若手研究:39歳以下の研究者が1人で行う研究
新学術領域研究:我が国の学術水準の向上・強化につながる新たな研究領域
研究活動スタート支援:研究機関に採用されたばかりの研究者や育児休業等から復帰する研究者等が1人で行う研究
特別研究員奨励費:日本学術振興会特別研究員(外国人特別研究員を含む)が行う研究の助成

2. 受託研究(一部)　10件 30,340千円

(単位:千円)

担当教員(所属・職名・氏名)		研究題目	契約額
情報科学研究科	講師 谷口 和弘	広島発・産学官医連携体制による高齢者見守り支援システムの研究開発	9,243
情報科学研究科	講師 谷口 和弘	広島発高齢者見守り支援システム開発業務	10,000
情報科学研究科	教授 竹澤 寿幸	風点名:精神的環境が成長下を感性イノベーション(知財創造)、研究開発課題:感性情報の計測・可視化技術の開発	2,600
芸術学部	学部長・教授 前川 義春	大学と行政の協働による文化芸術創造活動拠点設置・運営を通じた、都市住宅地区の持続的活性化に関する研究(基幹フェニックスアートプロジェクト実施計画策定)	3,240
芸術学部	教授 吉田 幸弘	広島駅周辺ロフト第一種市街地再開発事業における建築デザインに関する研究	617
芸術学部	教授 鮫澤 清夫	コーポレートブランドの企画・デザインの研究	2,318
芸術学部	教授 鮫澤 清夫	コーポレートブランドの企画・デザインの研究	120
芸術学部	教授 吉井 章	広島市安佐動物公園ビジュアル環境再生に伴う公共美術の研究	684
芸術学部	教授 吉田 幸弘	平成26年度太田市駅南北自由通路の活性化に関する研究	994
芸術学部	教授 倉内 啓	アクアで広島センター長40周年アニバーサリーイベントの空間演出に関する研究	524

3. 共同研究(一部)　6件 6,982千円

(単位:千円)

担当教員(所属・職名・氏名)		研究題目	契約額
情報科学研究科	教授 北村 俊明	同一無線LANアクセスポイント[AP]複数SSID(Service Set ID)の構成検討及び利用者動向の調査	206
情報科学研究科	教授 北村 俊明	広島市立大学無線LAN設備による公衆サービス提供実証実験	206
情報科学研究科	教授 石光 俊介	音声認識技術を利用したヒトの異常事態発生音声(転倒音、うめき声・苦しむ声・助けを求める声・ひそ音等)の検知に関する研究	1,090
情報科学研究科	教授 武田 光宏	生活習慣病等に関係する生体情報を無侵襲・低侵襲で計測のにモニタリングできるセンサ・デバイスの開発(究極のウエアラブルシステムの開発)	728
情報科学研究科	教授 若林 真一 北村 俊明 石光 俊介	FPGAとGPGPUとCPUを用いたモデル高速化技術の研究	2,592
情報科学研究科	教授 石光 俊介	アクチブノイズ制御の二重奏への適用の研究	2,160

W.B.
No.64
west breeze
2014-12

活躍する市大人

在学生、卒業生を問わず、国内外の数多くの分野で活躍する「市大人」を紹介します。

人と人とでつながって

芸術学部デザイン工芸学科3年　小鳥（ことり） 早絵（さえ）さん

2015年度広島信用金庫カレンダーのデザインイラストコンペにおいて、小鳥さんが株式会社中本本店とのコラボレーションで制作したデザイン案が見事に採用されました。そこで、カレンダー制作に携わったきっかけや、「広島」に対する想いなどを伺いました。

工房で制作する小鳥さん

―コンペに参加したきっかけは?

昨年から中本本店さんが「学生とコラボレーションしてデザインする」という企画を始められまして、その時は6名のオムニバス形式でデザイン案を出したのですが、コンペでは採用されませんでした。しかし、私の作品を気に入ってくださっていた中本本店さんからご連絡があり、今年も参加させていただくことになりました。

―コンペで採用が決まった時はどのような気持ちでしたか?

うれしかったですね。他のデザイン会社はプロの方ばかりですから、私のような学生のデザイン案が採用されたことは、すごく自信になりました。また、中本本店の担当者の方と、何度もやりとりをしながら制作を進めてきたので、その苦労のかいがあったことも感慨深かったです。

―民間とのコラボレーション。参考になったことは?

「やりとりの早さ」ですね。やりとり自体もすごく勉強になりました。大学の課題では、コンセプト重視なのですが、今回、実際のモノづくりの手順や人との関わり方も学ばせていただきました。関わる人も多いので、責任の重さが違いますね。1人ではなく、人と人とでつながって制作していく良い経験をしたと思います。

―カレンダーの見どころは?

色ですかね。私は県外の出身なのですが、広島は自然が豊かで色彩が印象的です。また、カレンダーを通じて、広島に住んでいる皆さんが、広島の魅力を再発見するきっかけになれば思います。

―今後の目標をお聞かせください。

これから就職活動や卒業制作などで忙しくなると思うので、今のうちにもっと作品を作りたいと思います。それと、流行は意識しながらも、「心に残るもの」を作っていきたいです。

―後輩へメッセージをお願いします。

作品を人に見てもらって、アドバイスをもらってください。ダメ出しをされたり、へこんだりすることもありますが、より良い作品を作るためには、必要なことだと思います。

採用されたカレンダー（デザイン）（表紙）

小鳥早絵（ことり・さえ）
2015年度広島信用金庫カレンダーのデザインイラストコンペにおいて、広島および近郊のデザイン事務所6社9作品によるエントリーの中から、中本本店とのコラボレーションで制作したデザイン案が採用された。広島の県花「もみじ」の葉脈をモチーフに、広島の各地域で見られる魅力的な風景や名所、アイテムなどをコラージュした。現在、広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科3年。視覚造形分野所属。福岡県出身。

開学20周年記念「第1回ホームカミングデー」を開催

11月1日（土）・2日（日）に広島市立大学同窓会と共同開催したホームカミングデーには、多くの卒業生および退職教職員が集まり、懇親会や「なつかし」の授業などに参加しました。

また、初日に「記念シンポジウム～ヒロシマの記憶を未来へ～」を開催し、吉見俊哉東京大学副学長の基調講演を皮切りに、ヒロシマの継承に関する本学の取り組み紹介やパネル討論が行われました。

学生リポート

「大学生」の手からつながる「平和」

国際学部3年　村本（むらもと） 理紗（りさ）

夏の夜風が心地よく旧広島市民球場跡地を包んだその時。約150人の大学生の手から放たれたペンライトの光はグラウンドに大きな「平」の文字をかたどりました。

8月28日（木）、本学の平和活動クラブS2が企画運営に協力した「8.28人文字プロジェクト」が、旧広島市民球場跡地で行われました。このプロジェクトは広島テレビの「Piece For Peace HIROSHIMA」という企画の一環で、当日はマツダ スタジアムで行われた広島vsヤクルト戦の5回裏終了時に、旧広島市民球場では「平」の文字、マツダ スタジアムでは広島県立五日市高等学校書道部の学生が書いた「和」の文字が掲げられました。

中継された人文字

戦後の広島市復興における「立役者のひとり」でもある旧広島市民球場。広島東洋カープは市民のアイデンティティとなり、広島に元気と勇気をもたらしました。今回、この地に集まったのは150人を超える大学生たち。平和活動クラブS2は、学生が広島という地で平和へどのようにアプローチしていけるのかを考え、さまざまなイベントや交流を通して発信してきました。参加者を「大学生」に限定したのも、戦争や原爆を知らない世代の若者から、平和について何が発信できないかと考えた結果です。旧広島市民球場跡地に学生が集い、平和への思いをこのような形で表したことは、この人文字を見た人にとっても、イベントに参加した学生たちにとっても、大きな意味を持つものでした。また、マツダ スタジアムと旧広島市民球場を「平和」という文字でつなぐという点にも思いが込められています。広島東洋カープの新旧本拠地をつなぐことで、広島復興や平和への思いは受け継がれているのだという意味も暗に示されているのです。

暗闇に灯った「平」の文字を見て、会場からは歓声が沸きました。この光の種が、人文字プロジェクトに関わった全ての人の心に宿り、いつの日か、その小さな種がきれいな花を咲かせ、「平和」の輪がさらに大きくなることを祈ります。

「8.28人文字プロジェクト」に参加する大学生たち

留学体験記

本学では、2年生以上の学生を対象に、海外の大学または研修機関での語学研修に対して、旅費や研修費用等を補助する海外語学研修補助事業を実施しています。毎年、学内公募で選考された学生が、夏季休業期間中または学年末休業期間中の1カ月程度、この制度を利用してさまざまな国へ留学しています。

多くの出会いに感謝

情報科学部システム工学科3年　石井（いしい） 友梨（ゆり）

私は3週間、海外研修でオーストラリアのブリスベンに行きました。学校の授業は、内容がとても充実していました。クラスは少人数で構成されているため、講師は生徒の質問に丁寧に答えてくれました。また、他の国の生徒と隣に座るように指示されていたため、リスニング、スピーキング能力をつけるためにはふさわしい授業でした。授業の中で近くの席の人と英語で相談しながら問題を解くことがあり、それがきっかけで多くの友達を作ることができました。

授業の後は、図書館で勉強したり、友達と街へ買い物に行ったりしました。また、私は寮に住んでいたため、友達と一緒に御飯を作り、食事をしながら自分の国のことや普段の生活について話しました。英語で会話しながら相手の国の文化を知ることができる時間は、非常に刺激的でした。

初めは、英語があまり聞き取れず、会話をする時に困ることもありましたしかし、3週間英語を話す空間に身を置くことで、少しずつ英語を聞き取れるようになり、自分から積極的に友達に話しかけることができました。これがきっかけで、自分を表現する力を鍛えることができたと思います。

今回の研修で、多くの人との出会いがありました。短い期間ではありましたが、出会った友達と非常に濃い時間を過ごすことができました。この出会いをこれからも大切にしていきたいです。

後列右端が石井さん

モチベーションが高まった語学研修

国際学部国際学科2年　原（はら） 萌菜（もえな）

私は第二外国語としてドイツ語を選択しており、実用的なドイツ語を学ぶために、ドイツのハンブルク大学で毎年開催されるサマースクールに参加しました。クラスは能力別に分けられており、世界各地の仲間と平日は毎日6時間ドイツ語を学びました。授業は日常会話に重点を置いていたので、授業で習った会話を実際に街で話し、それが通じた時には、自分の語学力の成長を実感することができました。寮も世界各地の人との生活だったので、さまざまな文化に触れることができて毎日が新鮮でした。ドイツは電車が大変発達しておりアクセスが便利なため、休日はお城や聖堂を訪れるためにいつも遠出をしていました。クラスメートやドイツ人のチューターとも、遠足やバーベキューを通して業晴らしい時間を過ごすことができました。

ドイツへ行く前は、自分のドイツ語に全く自信がなかったので1カ月間生活できるか不安でした。しかし、優しい仲間や先生に恵まれて毎日楽しくドイツ語を学ぶことができました。この語学研修を通して、ドイツ語学習へのモチベーションがさらに高まりました。

今は、このサマースクールで出会った友人に会いに行くために、さらなる語学力の向上を目指しています。

2列目左から2番目が原さん

事例でみる市大の地域貢献

「科学と芸術を軸に世界平和と地域に貢献する国際的な大学」を建学の基本理念としている本学は、広島市の公立大学として、地域と共生し、市民の誇りとなる大学を目指しています。ここでは、本学の地域貢献活動の事例を紹介します。

国際学部公開講座

本学では、さまざまな公開講座を開催しています。その1つ「国際学部公開講座」は、今年度、「国際交流・協力の日2014」事業として11月16日(日)に広島国際会議場で実施されました。

今年のテーマは「大衆文化を通じた国際交流」。国際学部の教員が、大衆文化とその交流について、世界の事例を交えながら講義をしたり、本学で学んでいる各国の留学生が、母国で流行っている日本の大衆文化などを紹介したりしました。

asazoo壁画制作共同プロジェクト

広島市安佐動物公園との連携により、2012年度から共同壁画制作プロジェクトを進めてきました。2014年10月、ライオン舎の壁面が完成し、完成報告式を行いました。このライオン舎の壁面完成をもって、3カ年にわたり、国内6カ所（レストハウス、キリン飼育舎、野外スプレッド舞台下側壁、サイ舎側壁、入口正面、ライオン舎）で行われたプロジェクトが完結しました。

広島市立大学産学連携研究発表会

本学の研究内容の紹介や教員との交流を通じて、共同研究への発展や研究成果の事業化を目的とする「広島市立大学産学連携研究発表会」。

近年、「ものづくり」の分野においても、感性価値は「新たな価値軸」として重要なテーマとなっています。そこで、今年度は「今、感性がすごい!」をテーマとして、9月3日（水）、まちづくり市民交流プラザで開催しました。

キッズキャンパス

「キッズキャンパス」は、広島日野自動車株式会社の寄付講座で、広島市の幼児と児童を対象とした公開講座として、2005年にスタートし、今年で10年目を迎えました。今年は「ゆめ」をテーマにワークショップを行い、子どもたちの創造性の育成と、彼らを取り巻く環境をより良いものにすることを目標として、芸術学部の教員と学生が指導に当たりました。

ひろしまドリミネーション

「おとどの国」をコンセプトに約140万球の電球の光で、平和大通りや市内中心部が彩られる「ひろしまドリミネーション2014」に、本学芸術学部の教員・学生らが協力しています。2015年に広島市が被爆70周年を迎えるに当たり、今年は本学学生が「平和」をコンセプトにデザインしたモニュメントが、11月17日（月）から開催されている「ひろしまドリミネーション2014」で展示されています。

基町プロジェクト

「基町プロジェクト」は、広島市立大学と広島市中区役所が連携し、創造的な文化芸術活動や地域交流を通じ、基町住宅地区の魅力づくりや活性化を目指しています。地域の方が文化芸術活動を身近に感じていただけるように、今夏ワークショップ等のイベントを企画、実施しました。

地域と大学をつなぐ窓口「広島市立大学社会連携センター」

〈お問い合わせ先〉

Tel:082-830-1764　　E-mail:office-shakai@office.hiroshima-cu.ac.jp

おめでとうございます

■**芸術学部の学生が「ヒロシマ平和ポスター学生コンペティション2014」で受賞**
2014年6月、芸術学部デザイン工芸学科2年の金本怜奈さんがグランプリを受賞。

■**情報科学研究科の教員らが「VC/GCADシンポジウム」で受賞**
2014年6月、情報科学研究科の宮崎大輔准教授らが、「最優秀論文賞（ポスター発表）」を受賞。

■**情報科学研究科の教員が「HEART2014」で入賞**
2014年6月、情報科学研究科の児島彰助教が、「Design Contest（FPGA部門）」で3位に入賞。

■**情報科学研究科の学生が「若手研究会ソフトウェアコンテスト」で受賞**
2014年7月、情報科学研究科（博士前期課程）1年の酒井温弘さんが、「優秀賞」を受賞。

■**情報科学研究科の学生が「WAC2014」で受賞**
2014年8月、情報科学研究科（博士前期課程）システム工学専攻2年の中迫翔子さんが、「Jamshidi & Madni Award」を受賞。

■**情報科学研究科の教員・学生が「NETs2014」で受賞**
2014年8月、情報科学研究科（博士前期課程）1年の事埼翔太さん、田村慶一准教授、北上始教授が、「NETs2014 Distinguished Paper Award」（優秀論文賞）を受賞。

■**芸術学部の学生が「第25回臥龍桜日本画大賞展」で入選**
2014年8月、芸術学部美術学科4年の櫻井あすみさんが入選。

■**芸術学部の教員が「再興展99回招待展」で受賞**
2014年9月、芸術学部の山浦めぐみ助教が「炭筆賞」を受賞。また、芸術学研究科（博士前期課程）造形芸術専攻2年の溪禁木貴さんが初入選したほか、本学の卒業生（修了生）も多数入選。

■**情報科学研究科の学生が「情報科学技術フォーラム」で受賞**
2014年9月、情報科学研究科（博士前期課程）知能工学専攻1年の森源太さんと同情報工学専攻2年の中原翔馬さんが、「FIT奨励賞」を受賞。

■**情報科学研究科の学生が「高性能コンピュータシステム設計コンテスト」で入賞**
2014年9月、コンピュータシステム設計部門に、チーム「CAs」として参加した情報科学研究科（博士前期課程）情報工学専攻1年の廣藤圭祐さんと多賀博紀さんが2位に、チーム「コンピュータデザイン研究室」として参加した同専攻1年の砂協大貴さん、石森裕太郎さん、および高森研輔さんが3位に入賞。

■**情報科学研究科の教員が「FAN2014」で受賞**
2014年9月、情報科学研究科の福巣通将助教が、「優秀論文賞」と「FANプレゼンテーション賞」を受賞。

■**芸術学部研究科の学生が「全国美術大学奨学日本画展」で受賞**
2014年10月、芸術学研究科（博士前期課程）造形芸術専攻2年の南保潤さんが「炭筆賞」を受賞。

■**情報科学研究科の学生が「計算機アーキテクチャ研究会」で受賞**
2014年10月、情報科学研究科（博士後期課程）情報科学専攻2年の安仁屋宗右さんが「2014年度コンピュータサイエンス領域奨励賞」を受賞。

■**芸術学部の学生が「国際雀富士美術賞」で受賞**
2014年10月、芸術学部美術学科4年の杉浦沙恵子さんと中澤志保さんが、「国際雀富士美術賞」の第35期奨学生に選ばれました。また、奨学生のうち、杉浦さんが「正賞」、中澤さんが「特別賞」を受賞。

■**芸術学研究科の修了生が「東京ミッドタウン・アワード」で受賞**
2014年10月、芸術学研究科（博士前期課程）造形計画専攻修了生で、現在は芸術学部銅鑼研究員の原田武さんが、アート部門のグランプリを受賞。

■**芸術学部・芸術学研究科の学生が「新匠工芸会展」で受賞**
2014年10月、芸術学研究科（博士前期課程）造形芸術専攻1年の久保田寛子さんが佳作賞を、芸術学部デザイン工芸学科（染織造形）4年の姫野奈菜子さんが奨励賞を受賞。

■**芸術学研究科の学生が「第41回創画展」で入選**
2014年10月、芸術学研究科（博士前期課程）造形芸術専攻2年の太田絵里子さんと庭孝文さんが入選。

■**情報科学研究科の学生が「JAWS2014」で受賞**
2014年10月、情報科学研究科（博士前期課程）知能工学専攻1年の平田佑也さんが、ポスターセッション「発表賞」を受賞。

※学年は受賞当時

市大ニュース

■**本学学生がマツダ スタジアムで「ピースライン メッセージ」を発信**
2014年8月6日（水）、広島にとって特別な意味を持つ平和記念日に、本学学生らによる「広島市立大学2014 ピースライン実行委員会」が、広島東洋カープの協力を得て、マツダ スタジアムの観客席に設置した約1,800個のキャンドルに点火。学生たちは、キャンドルひとつひとつに想いを託しながら点火し、平和へのメッセージを発信しました。

ピースライン

■**広島赤十字・原爆病院賞の第3回受賞作品が決定**
2014年9月、広島赤十字・原爆病院賞の第3回受賞作品として、芸術学研究科（博士後期課程）総合造形芸術専攻1年の手嶋勇気さんの作品「ロクス・アモエヌス　蜜相」が選考され、同院内に常設展示されています。

■**市大の学習環境がグレードアップしました**
2014年10月、学生の多様な学習スタイルを支援していくため、附属図書館、語学センター、情報処理センター等の附属施設のリニューアルおよびアートシアターの新設を実施しました。中でも附属図書館に誕生した「いちこ毛」（市大ラーニング・コモンズ）は、グループでのディスカッションやプレゼンテーションなど、自由な発想でさまざまな学び・交流活動が行える可能性を秘めた新しい形の総合学習スペースです。

■**いちだい知のトライアスロンで初めてとなる「知の鉄人」が誕生**
2014年10月1日（水）、ラーニング・コモンズ「いちこ毛」のオープニングセレモニーにおいて、いちだい知のトライアスロンで初めてとなる「知の鉄人」の表彰式を行いました。図書、映画など全120点の作品を鑑賞するトライアスロンコースを「完走」し、初の「知の鉄人」の称号を贈呈されたのは、国際学部国際学科4年の末田卓政さんです。来田さんは、昨年、一昨年のコメント大賞を受賞し、今年度は図書館学生サポーターとして活動もしています。

■**2014半度特待生が決定**
2014年度特待生30名が決定し、2014年10月29日（水）、表彰式が行われました。特待生制度は、成績優秀で、かつ他の学生の模範となる学生に対して年額20万円の奨学金を給付する制度で、2013年度に創設され、本年度から特待生の選考を開始しました。特待生規程に基づき、2年生から4年生までの各年次、国際学部は3名、情報科学部は5名、芸術学部は2名、計30名を選出しました。

この本　～教員の著書紹介～

国際学部　林本伸之 准教授
「ヘーヤミシの言語哲学――翻訳としての言語、想起からの歴史」
2014年7月、平凡社

「WEST BREEZE」へのご意見・ご感想を募集します

広島市立大学　企画・広報委員会
○E-mail: kikaku@office.hiroshima-cu.ac.jp
○Tel: 082-830-1666　○Fax: 082-830-1656

「W.B.(WEST BREEZE)」のバックナンバーは、大学ウェブサイト「大学紹介」>「大学広報」>「広報誌「WEST BREEZE」」に掲載しています。

広報誌名
広島市立大学広報誌の表紙タイトル「W.B.」（「WEST BREEZE」の略称）は、広島市立大学のある西風新都にちなんで命名されました。

編集・発行／広島市立大学　企画・広報委員会
発行日／2014年12月1日